

高知県感染症発生動向調査（週報）

2024年 第43週 （10月21日～10月27日）

★県内での感染症発生状況

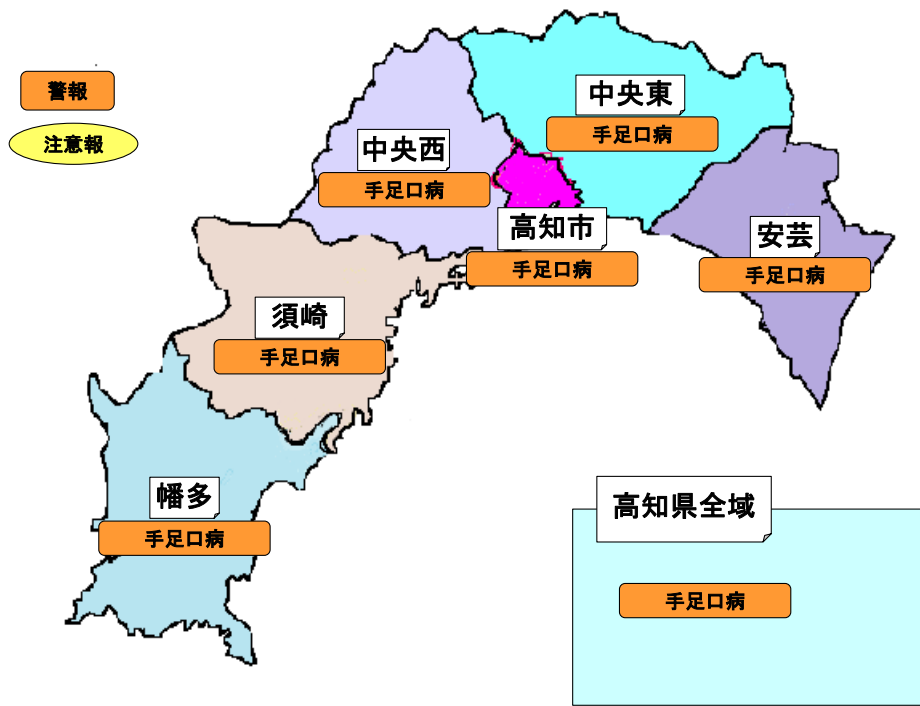
インフルエンザ・COVID-19 及び小児科定点把握感染症（上位6疾患）

疾病名	推移	定点当たり報告数	保健所管内別の傾向
手足口病	↑	8.48	須崎で急増、中央東で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	2.12	須崎で減少していますが、安芸で急増、中央西、幡多、中央東で増加しています。
感染性胃腸炎	↑	1.72	中央西で急減していますが、安芸、中央東、幡多で急増、須崎で増加しています。
新型コロナウイルス感染症	↓	1.50	中央東で急減、幡多、須崎で減少しています。
突発性発疹	↑	0.24	中央東で急減していますが、安芸、中央西、幡多で急増しています。
RSウイルス感染症	↓	0.24	中央東で急減していますが、安芸で急増しています。

<推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	↓	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	↗	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	↓	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	→	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

★地域別警報・注意報状況



★週報の発行日

週報は、毎週「水曜日」の午後3時30分以降に発行しています。

ただし、「月曜日」「火曜日」「水曜日」が祝日の場合は、「木曜日」になります。

★気になる感染症

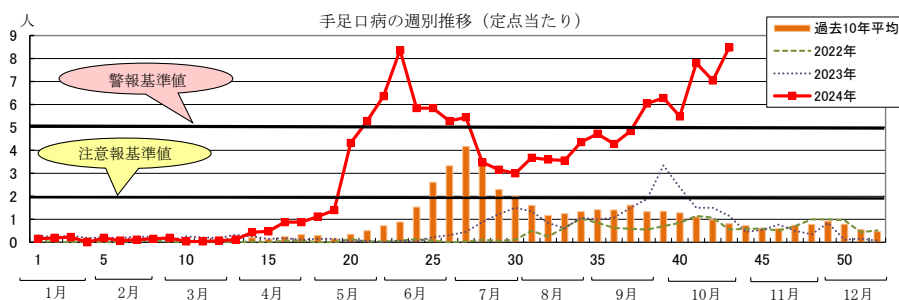
手足口病

手足口病は、通常3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどは数日間のうちに治りますが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを発症することがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

手足口病の原因ウイルスであるエンテロウイルスは、回復後も便中から検出されることもあるため、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

高知県の手足口病由来ウイルスとして、コクサッキーウイルスA16が3件、エンテロウイルス71が1件検出されています。

全国でも、直近の5週間（2024年第37週～第41週）でコクサッキーA16が78.0%と最も多く検出されており、次いでエンテロウイルス71が11.9%、コクサッキーA10が5.1%、コクサッキーA6が3.4%、となっています。このことから流行の継続は複数のウイルスの出現が原因だと推測されます。



【参考】厚生労働省ホームページ

手足口病 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

●予防方法

*手洗いが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。

*タオル・コップ等は共用を避け、又感染者との密接な接触はさけましょう。

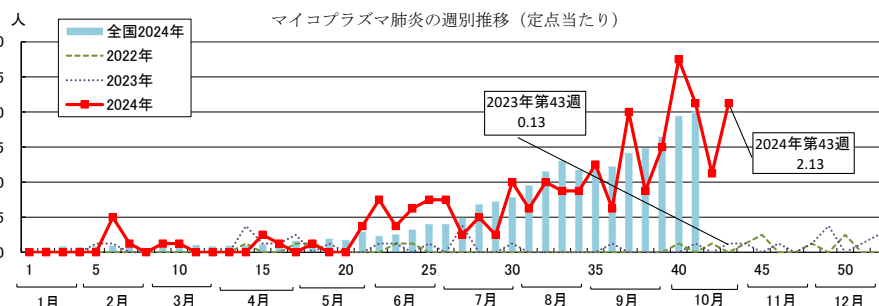
*エンテロウイルスは回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが排出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第19条）では欠席者が多くなり、授業などに支障をきたしそうな場合など、「学校長が学校医と相談をして第3種学校感染症としての扱いをすることがあり得る病気」となっています。

マイコプラズマ肺炎

第21週から増加傾向が継続しており、昨年の同時期と比較するとかなり多くなっています。第43週の報告数の87.5%は14歳以下で、定点医療機関からのホット情報でも、中央東で12件（第42週含む）、高知市で13件、中央西で1件、須崎で7件、幡多で46件と多くの事例が報告されています。



●予防方法

*普段から手洗いすることが大切です。

*患者の咳から感染するため、咳エチケットを守りましょう。

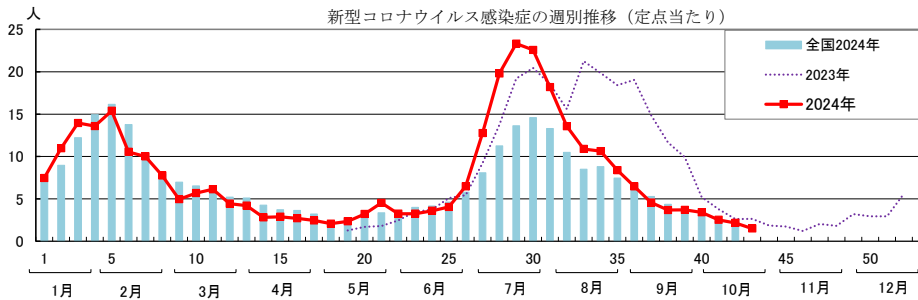
●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り学校医の判断を聞き、校長が第3種の感染症として緊急的に措置を取ることができる感染症となっています。

新型コロナウイルス感染症

●定点医療機関からの報告数

週数	新規感染者数	定点当たり感染者数
第 39 週 9/23～9/29	163	3.70
第 40 週 9/30～10/6	150	3.41
第 41 週 10/7～10/13	111	2.52
第 42 週 10/14～10/20	95	2.16
第 43 週 10/21～10/27	66	1.50



・新型コロナウイルス感染症定点医療機関数：44

・新型コロナウイルス感染症の届出基準：発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状を有する者について分離・同定による病原体の検出、病原体遺伝子の検出、抗原定性検査・抗原定量検査による抗原の検出などの検査方法により新型コロナウイルス感染症と診断した場合。又は発熱または呼吸器症状（軽症の場合を含む）を呈する者であって新型コロナウイルス感染症であることが確定した者と同居している者であり医師が総合的に診断した場合。

●予防方法・注意点

- *手洗い、十分な換気、密接、密集、密閉といったいわゆる「三密」を避けるなどの基本的な感染対策をお願いします。
- *重症化しやすい65歳以上の方等を対象に新型コロナワクチン定期接種を実施しています。お住まいの（住民票のある）市町村で実施されます。接種できる場所や費用の詳細は、お住まいの市町村にお問い合わせください。
- *医療機関や高齢者施設など重症化リスクの高い方々が集まる場所を訪れる場合は、当該施設の定めるルールに従い、必要に応じてマスクの着用をお願いします。
- *発熱等の症状のある方は、出勤や登校を控え、マスクを着用のうえ、医療機関を受診（特に高齢者・基礎疾患を有する方）すること又は自己検査を推奨します。
- *軽微な症状での救急外来の受診や救急要請を控え、判断に迷う場合は「高知家の救急医療電話」（#7119）や「こうちこども救急ダイヤル」（#8000）への相談などにより、救急医療、救急搬送への負担軽減にご協力をお願いします。

●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「発症した後5日を経過（発症日を0日目とカウント）し、かつ、症状が軽快した後1日を経過（軽快した日を0日目とカウント）するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	1	54	80歳代 女性	安 芸
		1		80歳代 女性	
		1		90歳代 男性	
5 類	カルバペナム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	11	90歳代 女性	高知市
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	17	50歳代 男性	
		1		70歳代 女性	

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
43	手足口病	38℃, 発疹	5	男	須崎	Human herpes virus 7
43	手足口病	発疹	3	女	須崎	Coxsackievirus A16 Epstein-Barr virus
43	手足口病	38℃, 発疹	3	男	須崎	Adenovirus 2 Coxsackievirus A16 Rhinovirus
43	手足口病	38℃, 発疹	2	男	須崎	Adenovirus 2 human parvovirus B19 Enterovirus 71
43	手足口病	発疹	4	男	須崎	Adenovirus 2 Coxsackievirus A16 Human herpes virus 7
43	気管支炎	気管支炎, 肝機能	1	男	中央東	Echovirus 11

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	高知大学医学部付属病院小児科	ノロウイルス胃腸炎 1 例 (1 歳女)
	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (10 歳男) RS ウイルス感染症 3 例 (1 歳男、1 歳女 2 人)
	JA 高知病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 溶連菌感染症 1 例 カンピロバクター腸炎 1 例 手足口病 10 例 第 42 週マイコプラズマ気管支炎 (Lamp 陽性) 11 例
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ感染症 6 例 (2 歳、7 歳、8 歳、9 歳、10 歳 2 人) COVID-19 1 例 サルモネラ 09+ 病原性大腸菌 (血清型不明) 腸炎 2 例 (6 歳、13 歳)
	三愛病院小児科	マイコプラズマ 2 例 (8 歳男、10 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 1 例 (11 歳男) 手足口病 10 例 溶連菌感染症 2 例 COVID-19 1 例
	細木病院小児科	マイコプラズマ肺炎 2 例 (10 歳男、11 歳女) マイコプラズマ気管支炎 3 例 (8 歳男、12 歳女、14 歳男) 溶連菌感染症 6 例 手足口病 5 例 COVID-19 1 例
中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A 型 1 例 COVID-19 1 例
	日高クリニック	マイコプラズマ気管支炎 1 例 (6 歳男)
須崎	もりはた小児科	手足口病の流行続く。2 回、3 回の罹患例有 マイコプラズマ感染症 (Lamp 陽性) 7 例と増加 (7 歳 2 人、8 歳 2 人、9 歳、10 歳以上 2 人)

保健所	医療機関	情報
幡多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎 24 例 (2歳、3歳、4歳、6歳、8歳6人、9歳、10歳5人、11歳2人、14歳2人、15歳4人)
	さたけ小児科	マイコプラズマ肺炎 22 例 (3~15 歳) 溶連菌 14 例 (1~16 歳) 手足口病 29 例 (1~12 歳) COVID-19 4 例 (0~33 歳)

★注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症 2024年10月28日第1~41週(2024年10月16日現在)

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症は、Vero毒素（Vero toxin：VTまたはShiga toxin：Stx）を産生するEHECによって起こり、発症した場合の主な症状は腹痛、水様性下痢および血便である。EHEC感染に引き続いて重篤な合併症として発症することがある溶血性尿毒症症候群（HUS）は、死亡あるいは腎機能障害や神経学的障害などの後遺症を残す可能性があり、脳症を併発することもある。EHECはウシ等の家畜が腸管内に健康保菌しており、と畜処理や食肉処理の過程等で食材や調理器具が汚染され、食品の洗浄や加熱等の適切な取り扱いが充分でない場合等に経口的に感染するほか、保育園等の施設においては感染者からの接触感染も起こる。これまでに国内でEHECの感染事例の原因食品等と特定あるいは推定されたものには、牛肉、牛生肉、牛レバー刺し、ハンバーグ、サラダ等がある。

EHEC感染症は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）により、全数把握対象である三類感染症に位置づけられており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出ることが義務付けられている。毎年、3,000~4,000例程度が報告されており（2020年3,094例、2021年3,243例、2022年3,370例、2023年3,834例）、例年、夏期に報告数のピークが見られる傾向にある。2024年のEHEC感染症報告数（第41週時点）においても、診断週で第20週から増加し始め、第27週で2024年の最多（154例）に達した。第41週は129例であった。本年第41週までの累積報告数2,985例は、2020~2024年の各年同週までの累積報告数を比較すると、2番目に多い報告数であった（2020年2,418例、2021年2,566例、2022年2,795例、2023年3,045例）。また、患者（有症状者）のみに限定した本年第41週までの累積報告数は1,900例であり、2020~2024年で3番目に多い報告数となっている（2020年1,593例、2021年1,662例、2022年1,920例、2023年2,052例：以上、各年同週まで）。性別では、男性が1,256例（42.1%）、女性が1,729例（57.9%）で、年齢中央値28歳（範囲0~105）であった〔男性：25歳（0~105）、女性：31歳（0~101）〕。患者（有症状者）のみに限定すると、年齢中央値24歳（範囲0~105）であった。第1~41週の累積報告数を推定感染地域別にみると、東京都（208例）が最も多く、次いで大阪府（125例）、群馬県（122例）、福岡県（94例）、北海道（91例）の順で上位を占めた（重複含む）。なお、推定感染地域が国外と報告された症例は188例（EHEC感染症累積報告数の6.3%）であり、韓国（143例）、ベトナム（13例）、中国（4例）、フィリピン（4例）、ネパール（4例）の順で上位を占めた。第41週時点までに報告されたEHEC感染症のうち、血清群・毒素型の情報が明らかであった報告の内訳は、O157 VT1・VT2（709例）、O157 VT2（708例）、O26 VT1（315例）、O103 VT1（173例）等であった（重複あり）（以上、暫定値）。

EHEC感染症の重篤な合併症として発症することのあるHUSは、第41週までに累計57例〔うち女性41例（71.9%）〕が報告された。届出時点で患者（有症状者）報告数に占めるHUS発症者の割合は、3.0%であった。直近5年間の同週までのHUSの累積報告数と届出時点で患者（有症状者）報告数に占めるHUS発症者の割合は2019年58例（2.7%）、2020年50例（3.1%）、2021年45例（2.7%）、2022年40例（2.1%）、2023年50例（2.4%）である。2024年第1~1週のHUSの年齢中央値は5歳（範囲1~6）であった〔男性：5歳（1~1）、女性：11歳（1~6）〕。年齢群別では0~9歳が34例で、HUS症例全体の59.6%を占めた。例年同様、女性と低年齢の小児で発症が多く報告されている。判明した血清群別ではO157が36例で、そのうち、O157 VT2は20例、O157 VT1・VT2は9例であった。EHEC感染症届出時点における脳症の発症は6例（うち5例でHUS発症）であった。

なお、第41週までには届出時点で死亡の情報が得られた症例はない。

2024年もEHECによる食中毒が報告されている。こうした食中毒の予防のためには、食肉の十分な加熱処

理、食材・調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などの徹底、生肉または加熱不十分な食肉等を食べないようにすることが重要である。EHECを死滅させるには、食品の中心温度について75℃で1分以上の加熱が必要である。また、焼く前の生肉などに使用する箸などの調理器具の使い分けなどについて、継続した啓発が必要と考えられる。

以前から、韓国はEHEC感染症の国外推定感染地域として多く報告されている。2018年以降に診断された症例で、感染地域が韓国と報告されたものは2024年第41週時点で322例で、その推移は、2018年30例、2019年53例、2020年0例、2021年0例、2022年4例、2023年92例、2024年は第41週時点で143例と、新型コロナウイルス感染症の流行により渡航が制限されていた2020年から2022年を除くと、増加傾向が見られる。また、例年、報告数は国内推定感染地域の症例と同様に夏に増加して冬に減少しているが、各年の診断月別の報告数のピークは、2018年7例（5月および7月）、2019年12例（7月）、2023年23例（9月）、2024年45例（9月）と、こちらも増加傾向が見られる。2018年以降の推定感染地域が韓国と報告された322例の基本属性としては、年齢中央値が25歳（範囲7～79）、性別は男性84例（26.1%）、女性238例（73.9%）と、若年そして女性の多い傾向が見られる。また、感染原因については経口感染が306例と9割以上を占め、具体的な食品名としてユッケや生レバー等の生の食肉の喫食歴が報告された症例は233例であった。血清群は0157が196例、026が43例、0103が29例等（重複含む）であった。重症例としては、3例がHUSを発症したことが報告されている。

生食用牛肉の提供の法規制はその国や地域によって変わると考えられるが、加熱不十分な牛肉にはEHEC感染のリスクがある。HUS発症者も確認されている状況を考えて、渡航先に関わらず、旅先での生食用食肉の摂取は避けることが重要であると考えられる。なお、2024年10月現在、日本人の主要な渡航先国としては、韓国が最多であり、新型コロナウイルス感染症の流行後、増加傾向にある。

また、保育等施設においてEHEC感染症の集団発生が毎年報告されている。日ごろから、食品の適切な取り扱いや、下痢などの症状のある子どもは登園を控えることが重要である。無症状の場合もあるため、接触感染予防として、オムツ交換時の手洗い・消毒、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要である。また、低年齢児が使用する簡易ミニプールには排泄物の汚染が拡がらないように十分注意し、必要に応じ使用水や器具を塩素消毒することが重要である。過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒が必要である。

（国立感染症研究所IDWR2024年第41号より）

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階
TEL：088-821-4961 FAX：088-821-4696

※この情報に記載のデータは2024年10月28日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合は、週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報 疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(55定点医療機関)

第43週 令和8年10月21日(月)～令和8年10月27日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名 (定点数)	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)	全国(42週末累計)
										R6/1/1～R6/10/27	R6/1/1～R6/10/27	R6/1/1～R6/10/20
インフルエンザ (COVID-19除外)	インフルエンザ			2	1	3		6 (0.14)	5 (0.11)	3,596 (0.73)	9,675 (219.89)	1,182,882 (240.08)
	新型コロナウイルス感染症	3	6	16	13	3	25	66 (1.50)	95 (2.16)	9,165 (1.86)	14,378 (326.77)	1,442,791 (292.83)
小児科 (25)	咽頭結膜熱							()	1 (0.04)	589 (0.19)	423 (16.27)	89,218 (28.51)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	7	21	7	3	14	53 (2.12)	40 (1.60)	5,334 (1.70)	3,211 (123.50)	424,763 (135.75)
	感染性胃腸炎	6	7	24		4	2	43 (1.72)	33 (1.32)	7,205 (2.29)	2,935 (112.88)	539,767 (172.50)
	水痘							()	3 (0.12)	453 (0.14)	125 (4.81)	20,507 (6.55)
	手足口病	12	37	65	16	27	55	212 (8.48)	176 (7.04)	29,416 (9.37)	3,330 (128.08)	548,573 (175.32)
	伝染性紅斑			2				2 (0.08)	3 (0.12)	1,045 (0.33)	23 (0.88)	11,163 (3.57)
	突発性発疹	1		3	1		1	6 (0.24)	4 (0.16)	764 (0.24)	262 (10.08)	33,632 (10.75)
	ヘルパンギーナ			3				3 (0.12)	6 (0.24)	816 (0.26)	662 (25.46)	71,899 (22.98)
	流行性耳下腺炎							()	2 (0.08)	114 (0.04)	22 (0.85)	5,400 (1.73)
	RSウイルス感染症	1	3	2				6 (0.24)	14 (0.56)	799 (0.25)	1,412 (54.31)	113,635 (36.32)
眼科(3)	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	()	532 (0.77)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	263 (0.38)	15 (5.00)	15,885 (22.89)
基幹(8)	細菌性髄膜炎							()	()	7 (0.01)	10 (1.25)	410 (0.85)
	無菌性髄膜炎							()	()	21 (0.04)	2 (0.25)	596 (1.24)
	マイコプラズマ肺炎			6			11	17 (2.13)	9 (1.13)	965 (2.01)	199 (24.88)	11,552 (24.07)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)						1	1 (0.13)	()	4 (0.01)	2 (0.25)	40 (0.08)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	()	()	12 (1.50)	276 (0.58)
計 (小児科定点当たり人数)	24 (11.25)	60 (9.61)	145 (14.60)	38 (15.50)	40 (18.50)	109 (21.13)	416 (14.64)			60,562	36,698 (1023.78)	4,513,521
前週 (小児科定点当たり人数)	18 (8.25)	68 (10.20)	136 (13.93)	42 (16.75)	24 (10.50)	103 (19.76)		391 (13.55)				

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(55定点医療機関)定点当たり人数

第43週

定点名 (定点数)	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)	全国(42週末累計)
										R6/1/1～R6/10/27	R6/1/1～R6/10/27	R6/1/1～R6/10/20
インフルエンザ (COVID-19除外)	インフルエンザ			0.14	0.25	0.75		0.14	0.11	0.73	219.89	240.08
	新型コロナウイルス感染症	0.75	0.60	1.14	3.25	0.75	3.13	1.50	2.16	1.86	326.77	292.83
小児科 (25)	咽頭結膜熱								0.04	0.19	16.27	28.51
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	1.17	2.33	3.50	1.50	3.50	2.12	1.60	1.70	123.50	135.75
	感染性胃腸炎	3.00	1.17	2.67		2.00	0.50	1.72	1.32	2.29	112.88	172.50
	水痘								0.12	0.14	4.81	6.55
	手足口病	6.00	6.17	7.22	8.00	13.50	13.75	8.48	7.04	9.37	128.08	175.32
	伝染性紅斑			0.22				0.08	0.12	0.33	0.88	3.57
	突発性発疹	0.50		0.33	0.50		0.25	0.24	0.16	0.24	10.08	10.75
	ヘルパンギーナ			0.33				0.12	0.24	0.26	25.46	22.98
	流行性耳下腺炎								0.08	0.04	0.85	1.73
	RSウイルス感染症	0.50	0.50	0.22				0.24	0.56	0.25	54.31	36.32
眼科(3)	急性出血性結膜炎									0.01		0.77
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.38	5.00	22.89
基幹(8)	細菌性髄膜炎									0.01	1.25	0.85
	無菌性髄膜炎									0.04	0.25	1.24
	マイコプラズマ肺炎			1.20			11.00	2.13	1.13	2.01	24.88	24.07
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)						1.00	0.13		0.01	0.25	0.08
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)									1.50		0.58
計 (小児科定点当たり人数)	11.25	9.61	14.60	15.50	18.50	21.13	14.64			1023.78		
前週 (小児科定点当たり人数)	8.25	10.20	13.93	16.75	10.50	19.76		13.55				

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2024年 第43週)

